

第4期丹沢大山自然再生計画における取組み

(計画期間：令和5年度～令和8年度)

奥山域における主な取組み

これまでの知見も活用し、植生保護柵、土壌保全工、シカ管理等を効果的に組み合わせた統合的な取組を継続して実施します。

- ・【重点】ブナ林（奥山域自然林）の保全・再生対策
- ・【重点】奥山域におけるシカの管理捕獲
- ・【重点】林床植生衰退地等での土壌保全対策の実施
- ・ブナ林（奥山域自然林）モニタリングの実施
- ・ブナ林の衰退により生じた草地における森林再生試験
- ・国有林や近隣自治体と連携した保全・再生対策の実施・検討
- ・ブナハバチの密度抑制手法の確立
- ・植生保護柵による希少植物の保全

山地域における主な取組み

人工林を混交林に誘導したり、持続的な資源活用を図ります。水源かん養などの公益的機能を発揮させるため、新たに森林整備と一体化したシカ管理手法の確立に向けて取り組みます。

- ・【重点】シカ管理を統合した森林管理の推進
- ・【重点】森林モニタリングの実施
- ・公益的機能を重視した混交林等への転換
- ・森林資源の活用による持続可能な人工林の整備
- ・山地域自然林（広葉樹二次林・モミ林等）の保全・再生対策
- ・森林整備地におけるシカ管理手法の検討
- ・県産木材の有効活用の促進
- ・林道の改良と作業道の整備

里山域における主な取組み

地域による鳥獣被害対策や里地里山・農地の保全・再生・活用等に支援し、地域一帯の取組みを推進します。ナラ枯れ被害対策について技術支援等を行います。

- ・【重点】地域主体の野生動物被害対策や、地域特有の課題に応じた森林整備等の実施の支援
- ・地域が一体となった自然再生活動への協力
- ・ナラ枯れ対策の支援
- ・里地里山の保全・再生・活用
- ・環境保全に配慮した農業の推進

渓流域における主な取組み

土壌保全等の対策や淡水魚類の保全方策等の検討に取り組み、渓流やダム湖等への土砂流入の抑制や生物多様性の保全を図ります。「溪畔林整備の手引き」を活用し人工林を整備します。

- ・溪畔林整備地のモニタリング
- ・淡水魚類のモニタリングと保全方策の検討
- ・ダム湖上流域等における土砂流入防止対策
- ・森林土壌保全による渓流への土壌流入防止対策
- ・溪畔林の整備
- ・モデル流域における溪畔林等自然林の再生

景観域に共通した主な取組み

● シカ等野生動物の保護管理

- ・植生保護柵の効果的な設置と維持管理
- ・シカの定着解消のための捕獲
- ・地域ぐるみの被害対策等の推進
- ・持続的な野生動物保護管理手法の検討
- ・ツキノワグマ被害防除対策の検討

● 自然公園の利用のあり方

- ・【重点】団体等との協働による登山道維持管理
- ・【重点】かながわパークレンジャー・自然公園指導員等による普及啓発活動
- ・登山道等の整備・維持管理
- ・環境配慮型山岳公衆トイレの整備・維持管理
- ・ビジターセンター等を拠点とした普及啓発

● 希少動植物の保全

- ・希少動植物の保全手法・対策の検討
- ・希少動植物のモニタリング
- ・植生保護柵による希少植物の保全
- ・ヤシャイノデの保護増殖と現地保全対策実施

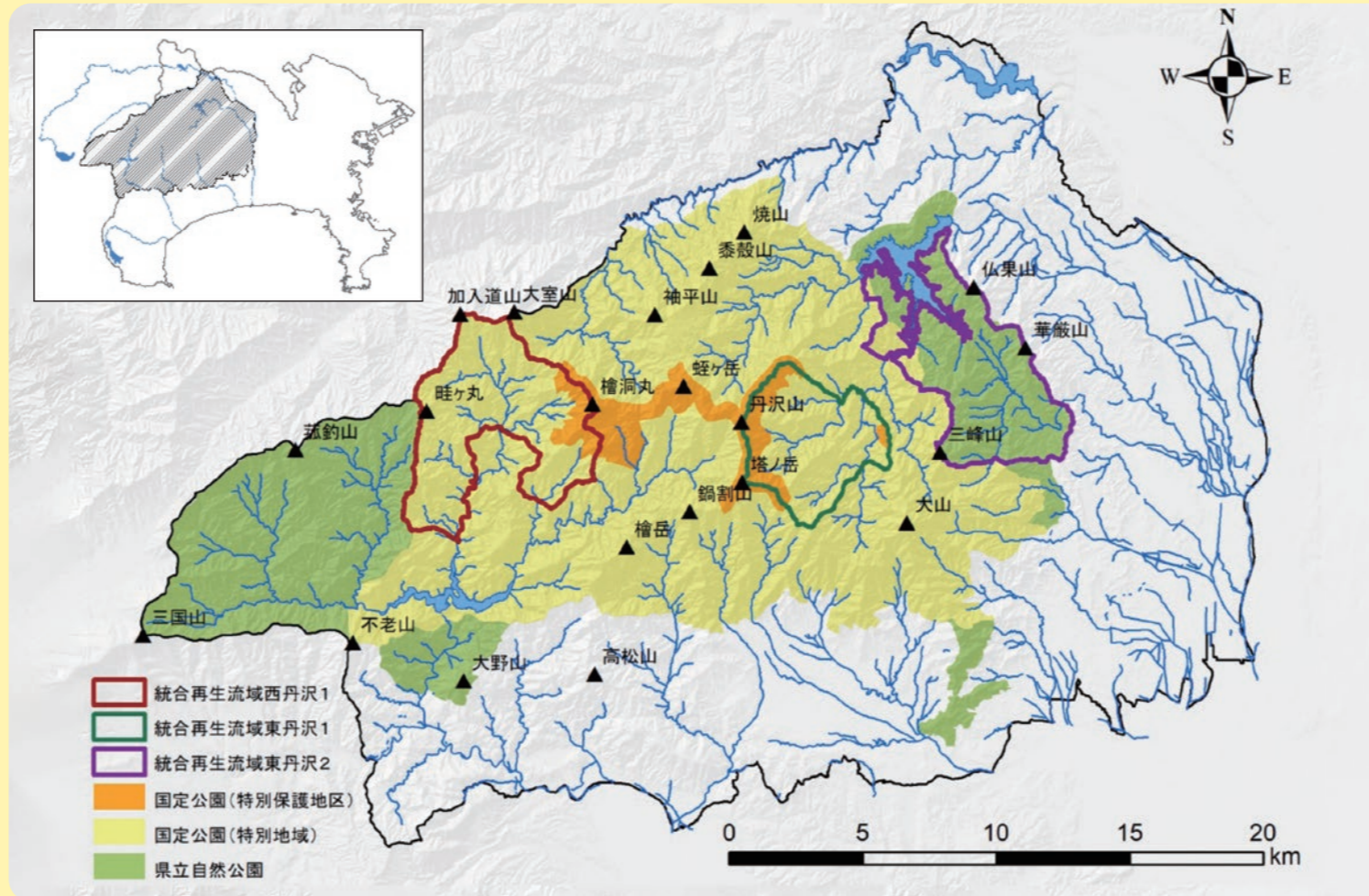
● 外来種の監視と防除

- ・アライグマの情報収集と監視
- ・その他外来生物の情報収集と監視
- ・自然観察プログラムを活用した外来種の普及啓発
- ・丹沢産の地域性苗木の育成

● 各取組みを推進するための協働・普及啓発

- ・【重点】団体等との協働による自然再生の推進
- ・民間企業との連携による自然再生プロジェクト推進
- ・学校教育との連携等による自然再生の担い手づくり
- ・自然再生委員会との協働による自然再生事業の検証

丹沢大山地域



● 計画対象区域

丹沢大山国定公園等を含む8市町村（相模原市緑区津久井地区・秦野市・厚木市・伊勢原市・松田町・山北町・愛川町・清川村）の市街化区域を除くエリア

● 統合再生流域

丹沢大山が抱える課題は相互に関連していることから、自然再生事業の実施にあたっては、事業を横断的・統合的な視点で進める必要があります。こうした各事業間の連携を図るモデル地域として「統合再生流域」（東丹沢1、東丹沢2、西丹沢1）を設定し、事業連携を重点的に進めています。

神奈川県自然環境保全センター



ホームページ

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/top.html>



X (旧ツイッター)

https://twitter.com/hozenc_kanagawa



神奈川県自然環境保全センターは、みどりの保全・創造に係る県民ニーズへの対応や森林等の自然環境の保全再生を推進するため、既存の5事務所の統合により2000年4月に設立されました。

ブナ林の再生やシカの管理などに関する調査研究や事業、ボランティアとの協働連携や自然環境の普及啓発など、丹沢をはじめとした自然環境の保全・再生に取り組んでいます。

県産木材を使って建てられた本館には、丹沢大山の自然を紹介するミニシアターやジオラマ（模型）などを備えた展示室があり、子どもから大人まで楽しく丹沢大山の自然を学べます。小川や雑木林が広がる野外の自然観察園には、カワセミなど里山の多様な生き物が生息し、身近な自然を楽しむことができます。

神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657 TEL.046-248-0323(代表)



丹沢大山自然再生計画

人も自然もいきいきとした丹沢大山をめざして

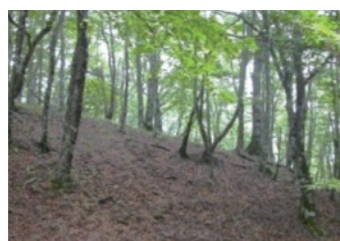


令和5年3月 神奈川県

丹沢大山自然再生計画の策定の背景

丹沢の自然環境の衰退

首都圏の自然の宝庫として親しまれている丹沢では、1980年代から生態系に変化が生じて、モミやブナの立ち枯れ、植生の衰退、人工林の荒廃等が深刻化しました。



スズタケの退行



ブナなどの樹木の立ち枯れ

2006年6月に丹沢大山総合調査実行委員会により、自然再生の目標、解決すべき課題と対策、実行体制等をまとめた「丹沢大山自然再生基本構想」が策定されました。

2006年10月には「丹沢大山自然再生委員会」が設立され、多様な主体の協働による自然再生の取組みが始まりました。

神奈川県も丹沢大山自然再生基本構想を踏まえて、2007年3月に「丹沢大山自然再生計画」を策定し、取組みを進めています。

丹沢大山総合調査

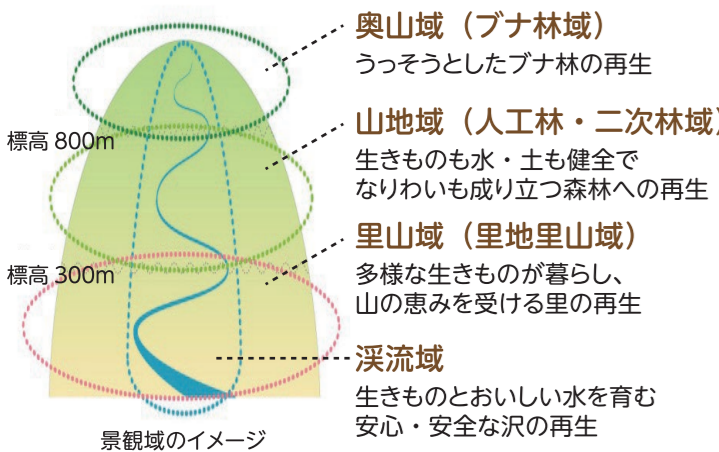
2004～2005年度にかけて、県民や学識者、企業など総勢 500名余りが参加し、「丹沢大山総合調査」が行われました。その結果、「自然環境の劣化は、人間の営みの影響が積み重なり、複雑に絡み合って引き起こされている」ことが明らかになりました。

丹沢大山自然再生計画の概要

自然再生の目標

丹沢全体の自然再生の目標に加え、景観域ごとの目標を設定し、統合的な事業展開により課題解決を目指します。

丹沢全体 人も自然もいきいきとした丹沢大山



8つの特定課題

景観域ごとの課題と景観域に共通した課題の計8課題に取り組みます。

	ブナ林の再生		シカ等野生動物の保護管理
	人工林の再生		希少動植物の保全
	地域の再生		外来種の監視と防除
	渓流生態系の再生		自然公園のあり方

計画推進の方法

事業と並行してモニタリングによる科学的な検証を行うとともに、自然再生委員会による事業の評価を受けて計画改訂しながら進めます。



奥山域の取組状況

● **ブナ林 (奥山域自然林) の保全・再生対策の進捗**
これまでの技術開発等の成果を活用し、植生保護柵設置やシカの管理捕獲、ブナ枯れで生じたギャップでの自然林の再生に道筋をつけました。



ワイルドライフレンジャーによる稜線部のシカの管理捕獲



柵内で確認された絶滅危惧種のレンゲショウマ

● **奥山域でのシカ生息密度低減**

主稜線部を中心にシカの管理捕獲を実施し、シカの生息密度が低下した自然林では林床植生が増加しました。



ブナ林に柵を設置した直後



設置後10年経過した柵内ではスズタケと樹木稚樹が成長

● **希少動植物の保護・回復事業の実施**

長い間シカの影響を受け続けた後に設置された植生保護柵における追跡調査を行い、柵内での絶滅危惧種の生育を確認しました。

山地域の取組状況

● **地域特性に応じた適切な森林整備の実施**

林道から遠いスギやヒノキの人工林において、広葉樹との混交林化を目指して間伐を行い、林床植生が増加しました。林道から近い人工林では間伐や枝打ちを行い、健全な人工林の育成を図りました。



山地域のシカ管理捕獲



河川水量の観測施設

● **森林整備とシカ管理の連携**

水源かん養機能などの森林の公益的機能発揮のため、森林整備箇所でもシカの管理捕獲を実施しました。

● **森林モニタリングの進捗**

森林の状態と水や土砂の流出の関係を調べるためのモニタリングを継続し、森林の整備や植生保護柵の設置によって林床植生が大幅に増加すると、水の濁りが減少する傾向が見えてきました。



間伐前の人工林



間伐して数年経過した人工林

里山域の取組状況

● **地域主体の鳥獣被害対策や地域特有課題に応じた整備等の実施支援**

県のかながわ鳥獣被害対策支援センターにより、地域ぐるみで取り組む鳥獣被害対策の支援が行われました。



鳥獣被害対策についての地域ぐるみの勉強会

● **里地里山の保全等の促進**

「里地里山活動協定」認定団体への活動支援が行われました。

● **環境保全に配慮した農業の推進**

環境保全型農業直接支払事業を活用した経費の一部助成により、8市町村で化学合成農薬の使用量が削減されました。



動物を誘引する放棄された果樹の実のもぎ取り

渓流域の取組状況

● **渓流生態系の調査・モニタリングと保全・再生手法の検討**

渓流沿いの森林整備地のモニタリングを継続し、河畔林構成樹種の稚樹の成長に植生保護柵設置が有効であることがわかりました。渓流沿いの樹木の樹冠の発達が魚類の餌の増加につながることも示唆されました。



渓流における魚類調査

● **渓流生態系の保全・再生事業の実施**

渓流沿いの私有林 (水源の森林づくり事業地) において、「河畔林整備の手引き」を参考に、広葉樹を導入するための人工林の間伐や植生保護柵の設置が進められました。



整備前 (大滝沢)



整備して10年後

景観域共通の取組状況

● **登山者による環境への影響軽減対策**

登山道の維持管理を行うとともに、2018年度には三ノ塔休憩所に環境配慮型山岳公衆トイレを新設しました。



三ノ塔休憩所の環境配慮型山岳公衆トイレ

● **県民協働の枠組みを通じた連携**

自然再生委員会と連携した活動報告会の開催や各団体との共催による各種イベントによる普及啓発活動などに取り組み、自然再生の普及啓発を図りました。



県民協働による登山道補修

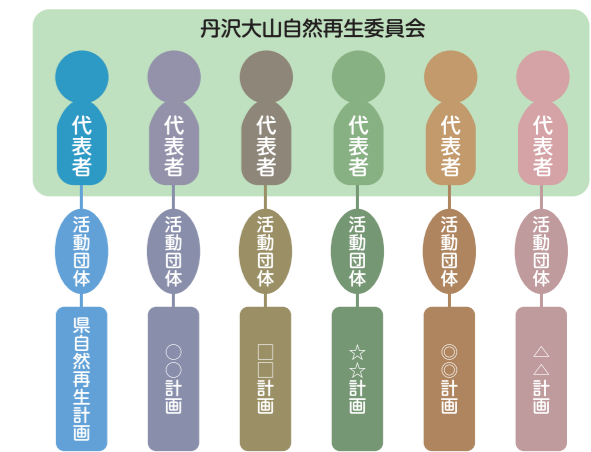
丹沢大山自然再生委員会

丹沢大山自然再生委員会 HP <https://www.tanzawasaisei.jp/>

丹沢で活動する団体、企業、マスコミ、専門家、行政などが参画して2006年10月に設立されました。

県の自然再生事業や企業が取り組む自然再生プロジェクトなど、多様な主体の協働による自然再生事業の評価と支援を行っています。

また、丹沢の自然環境の保全・再生を目指して団体や企業などが行う県民参加型の活動やイベントについて共催・後援しています。



丹沢大山自然再生委員会と県の連携・協働

● **委員会が団体等との共催で行う現地学習など普及啓発事業に県も参画・協力しています。**

● **委員会が開催する公開シンポジウム等に県も共催しています。**

● **委員会と学校教育との連携による体験学習等に県も参画・協力しています。**

● **委員会構成員が取り組む自然再生プロジェクトの企画・実施に県が協力しています。**

